

ケモノ達のことは有泉大に問え

「海のことは舟子に問へ、山のことは木こりに問へ」という諺がある。この伝で言えば「シカにイノシシ、クマにサル、里と里山を荒らすケモノ達のことは有泉大に問え」と言って間違いない。彼はただケモノたちを懲らしめるのではない。ヒトとケモノたちが共存できる境界線をまもる山之神の代理人である。古来、里に住むヒトと奥山に棲むケモノとは里山を昼夜に分けて共存共栄しながら生きてきた。その境界を破ったのは環境を破壊したヒトである。その秩序を治めるのが代理人の仕事だ。その第一線の手法を遺憾なくつづけたのが本書である。